



地理之要

一和蘭國ノ一里ト云ハ四千シケレイトトシ其一シケレイトト云ハ一步ト
 常用ハ三フウトトシ其フウトトシ日本曲尺ニ直シ一尺〇二分アリ是ヲ以テ天度地理ニ
 入ルベシ
 一熱ル瑪尼亞ノ一里ハ五千シケレイトトシ
 一佛良察ハ一里ヲ二千四百シケレイトトシ
 一諸厄利亞ハ一里ヲ二千二百五十シケレイトトシ
 一意太里亞ハ一里ヲ二千シケレイトトス
 ・右ハ悉ク皆シケレイトヲ以テ里數ヲ天度地理渡海ノ三學ノ基本トスル
 フナレハ至テ造カナル證據ナリ地理學及ヒ渡海學ハ悉ク皆里程及ヒ方位ヲ
 自得スルヲ以テ要トセリ
 一熱爾瑪尼亞ハ南北緯一度ノ里程一千五里トセリ前ニ云一里ハ五千シケレイ
 トトシ其一シケレイトトハ五尺一寸トナリ五千シケレイトトハ二十五万五千寸ナリ是
 ヲ日本ノ間數ニシテ四千二百五十間是ノ町數ニ直シテ七十町五十間ナリ是
 ヲ日本ノ里數ニ換ヘテ一里二十四町五十間緯一度ノ里程ナリ



異人恐怖傳譯例

一、是書ハ西域の人(エングルベルトケンプル)が往年我國小渡りて
 見聞を一所を集めて著し日本志の中より金骨とも
 いふ所あるを今將に摘出して拙き筆をわく翻譯し
 するものなり日本志ハ彼方の語もく(ベシケレイロキギハン
 ヤツパン)といへる書あり
 一、書中所々(檢夫尔)が自注あり彼方ゆくハ短文ある注ハ書の
 間小(Small)の如く前後ハ半月の形をなして其中間
 小記せり此方ゆくニ行ハ書むるが如し今ハ予が注と混雜
 せんこと必恐るが故に其首ごとも(檢夫尔)自注曰の六字と

伊門 1560 卷 1

○恐怖傳上

○例一

イヲ書セリ



加ふる力のなり

一 書中五言對句のぶつれりのりて是ハ詩文の類あれども
此章 ナン 彼方小五言七言あどの事あるまはあは只其言の数た

まゝま相似るるを以て助語の類少く一二を添減して照應
をなさしむるけなかり惣て彼方までと詩も韻脚あれ

ども今是書に出るハ詞の類なるゆゑ韻脚ハ見えぬ

一 彼方の文字ハ音のまじりて義あり我等が國字のごとく

故に我國の人地名など皆其音をめて記せり今是書中地
名人名の類を記し或ハ本字をめてし或ハ國字を以

する故は蘭字の音ゆく(キヨモリ)(ヨシツ子)(サツマ)(ヒゼン)を
イ 其故ハ

どあつら分明は是清盛義経薩摩肥前を直に本字を
以て記せり讀小使なむむが為あり又日本二字の義を訓
して三ツポに日の基本といはんが如しと記せりがごとくハ
り日本ハ日基本といはんが如しと記せりハ日本此
二字重複するが故に國字を以て三ツホンと記せりゆゑの也
但し日の基本ハ原文よは(ゴロントスラクハンデリン)とあり又
酒を(サケ)とりあつと記せりも其酒を酒といふとは翻し難し
酒ハ原文よハ(ヒール)とりよさるバとて其(ヒール)を酒と云
と翻すもバ(ヒール)の語は對譯あり故にわづ國字を用ひ
て(サケ)とりよと記せり又地名よ(ボンゴ)とあつて豊後とを

○恐怖傳上

○例二

備後とも分明ありぬ類あり是等も原文のまゝに國字より記せり又右よりいへる〔サケ〕と實ハ〔サツキ〕と記せり是又原文の訛より仍り

一 常の文は平假名を用ゐ蘭語蘭音ハ片假名を用ゐつ前後と紛亂せざらんが為なり イ本此章ナシ

一 是書元來ハ鎖國論といへる題號もあく又上下卷の別もあは是等ハおのまが假小設けしなり

一 是書を讀んまはまづ世界の四洲五帯といふこと知べし四洲ハ皇國支那唐を印度 韃靼 伯尔奈亞 等ハ亞細亞洲の中なり魯奈亞 今云 赤人 の本國都兒格の都城熱尔馬泥亞國

イ本是レヨリ下四十三字ナシ

和蘭國波爾杜瓦爾國等ハ歐邏巴洲の中なり歐邏巴ハ亞細亞の西北よりあり歐邏巴の南より亞夫利加洲は此地より莫羅格國葛納木太波亞國等より歐邏巴より西より當りて亞墨利加洲あり此地多くは歐邏巴人の為小押領せられしり亞墨利加を我國よりいんを却て東より地球渾圓なる故あり又五帯ハ天は赤道の下を地の赤道より天は南北極の下を地は南北極より赤道より二極に至るまで各九十度より赤道を距ること南北各二十三度半の間を何れも寒帯といひ寒暖の中間あり南北何れも正帯と云一暖二寒二正とも五帯あり我國ハ北緯 北は美を 大概薩

〇例三

摩の海邊まのうみべより三十度津輕つがるより四十度なりこゝは北の正帶中きたのせいどうちゆうなる地なり

作噩之歲雁来月既生魄

別段 4

異人恐怖傳卷上

行四

極西 檢夫爾 著

二字下ハハ改
一字下ニ改

の日本人全國を鎖し國民をして國中國外小限らば
敢て異域の人と通商せざしむる事實小所益あり
興まりや否やの論

我等が住む地球ハかくがうり狭小なる世界ありのを今又
それが中ニ於て更小別をなす分をあり事を好まむ
好まむと議者多くハ無道なりとせん同好通交の道ハ人間性
宜くあるべき所あるを今若これを破る事好むを其罪の
大なること人殺むにむしとせん凡造物者の生むる慶の

○恐怖傳上

〇一

摩の海邊まのうみべゆて三十度津さんじゅうどつ輕かろゆく四十度しじゅうどなりこゝ北きたの正帶中せいとうちゆう
なる地ちなり

作噩之歲雁来月既生魄

異人恐怖傳卷上

極西 檢夫爾 著

今いまの日本にっぽん人じん全國ぜんこくを鎖くわ
敢あてて異域いおきの人ひとと通商つうしやう
興あつまりや否いなやの論ろん
國民こくみんをして國こく中國ちゆうこく外がい小限せうげんらば
ゆる事實じじつ小所益せうしよえきあり

我等われらが住すむ地球ちきゆうハかくせうせう狭小せうせうなる世界せかいありりのを今いま又また
それが中ちゆうに於おて更さら小別せうべつをなが分ぶんをあり事を好このまをあつ彼國あいつくに不通ふつう
好このまはと議者ぎしや多くハ無道ぶどうなりとせん同好どうこう通交つうかうの道みちハ人間にんかん此こゝ
宜よろくあるべき所ところあるを今いま若しこれを破やぶる事こと好このまを其罪そのつみの
大おほなること人殺ひところむにむととせん凡造物者ばんぞうぶつしやの生なまむる處ところの

物熟じやくじやくり同類どうるい聚會くわいごう通交つうかうせりしを欲よくせざるしされを此義このぎは背そむ
ままくく議論ぎろんを立たんものハ実まこと小造物者せうぞうぶつしやを蔑視べつしせりしのたをたと舉世こぞ
唯一ただひとツの日輪にちりんを見唯ただひと一ひとツの地面ぢめんを踏ふて又共小同ともども一ひとは氣きを呼吸こそく
せりし天地てんちの我われとを不設ふせつる處ところの節度せつど造物ぞうぶつは我われと與ある處ところの法ほう
則すなは一ひとツとと通交つうかう偕生いせいの道みち小關係せうかんけいををとといいるるなりなり人生にんじやうまま
て鵠燕こくえん小せうじじととちちととざざんんやや異域いよくは往むかふふとと來きふふととああららずずんんやや豈あ彼あ天心てんしん
の妙用めうよう自在じざいを分付ぶんぷせりして我體わがたい中ちゆうに在ありり至尊しそんとと所ところの神魂しんこん
ををわわくく形體けいだい一いつ和わををぶぶるる處ところありりととううせんせん言ハことば神形しんけい全ぜんくく格別かくべつ
得えるるの理りももああららずずととありり今其形體いまそのけいだいををくく恒小こつこく一國いつこくの中ちゆうに囚こんん
せりしととままととままとと神しん魂こんととををくく何なんとと殊邦異域しよほういよくの奇觀きくわん娛樂ごらくとと

與あららずずととああるる事ことをを惡あくままとと可かああららんんとと彼衆星あつしゆせいも無邊むへんの天際てんさいに在ありり
くくこれこれがが為ためにに大小たいせう競せうああららずずととありり言ハことば諸星しよせい又また能よくく周遊しゆうゆうしてして其その
所ところをを守まもるる學者がくしや多おほくくハ信しんぶぶととくく諸星しよせいの體尊たいそんととて勝かちちまますすととりり
無物無毛むぶつむもうの境さかいありりとと然しかららバ是亦各々これまたおのづから一世界いつせかいありりとと種々しゆしゆ
の有情うじやうありり衆生しゆじやうははよくよく天恩てんいんを信仰しんかうするするの道みちをも知しるる者もの有ありり
て住所しよじゆととままととななららずずとと然しかららバ地球ちきう世界せかい未生みせい以前いぜんよりより是等これらの
衆生しゆじやうハ既すでにに宇宙うちうにに充滿ちゆうまんををするするものなりなり言ハことば古人こじんの名なををてての第八だいはち
小せうんんととままととままとと又また此理このりををいいへへるるゆゆがが有あるるされされバ何なんととの人も人も巷ちやう
學陋習がくろうじやくの小器せうきを脱出だつしゅつししとと敢あてて尊大雄偉そんだいゆうゐ高上かうじやうのの見けんを立たんとと
おおももとと直ちよくにに造物ぞうぶつの慈悲じひ智慧ちゐけいは無窮むきゆうありりととを信しんぶぶとと以もてて

決定して憚る所あるまこと勿き星體の天上よりハ譬へバ諸大域
の地上に在るが如し然して天際浮游此大氣高遠ありて中間
満ちてバ其世界彼此互小通行するごと能く既小如此の不
通此世界ありて以て觀まバ其諸世界に住らむ衆生も彼此各
異種異性殊状殊品ありて是皆守定し難くざるの道理
なり是論最信を取不堪るの事なきと特小直実の道理
を以て此を反覆して彼不達して觀るに今かの
獨尊至智の造物者の同性同根ある物をもて造り出さる衆生
よして若くハ彼球若くハ此球の世界に共ありて同く住らん
ものハ譬へを一域の内に同居せる民に如し亦く宜く相

親睦して失ふことなきべく乃至其道不戻其事を破らん
もの何れハ最上の罪科とて其理亦自ら明白あり備又
別して我地球をいとゞ造物を設けし人民の住所とて智
慧と慈悲とをめぐり亦能く造営し其人民をして
悉皆相通して一體となさるべしとて國土の異は隨ひてその
産する所種々の草木あり種々の禽獸あり種々の金石あり天
下最上觀樂地として悉皆萬殊其前小備へく具足なること
ハあれりの小ぞありたる

此有饒禾稼彼有美蒲葡萄印度出象牙沙巴產名香地名
巴人倫互扶助す所の功用此の是ぞ通交同好の要

樞多りのなり々然らば今の日本人の目前小これ天経を
破廢一頭露小かの天心を輕侮一妄小天此期す所の同好此法
則人間一日もあつてあつるべからざる物を残らば如たハ争で
理小適へると争で罪中らばとせん既小其國中を禁錮し
外國諸方の人と通路をせしめ悪くして乃至入来せんと欲する者
あれハ強て拒むる遠ざけ土人を境内小籠て恰も獄囚の如くし
暴風諸災の爲は異國の浦に漂流しむ者をも異邦を
見るとして聞かば生涯を囚圍小囚ふると連逃の者ハ
捕へ歸まつるがごとく自ら好きて出國を去る者あまハ若く
ハ國を不足ありとて出らんもまたハ海外の所を觀んと欲

して出らんも一切小ことを磔刑小處一異國の人不幸小
暴風破船の災ふよりてかの浦に漂着する者あれば亦捕へて獄
小投する此類のごとくハ豈く此造物の制度上天此法則の天
下は樹立せるもの破越するに非ざると何ぞや

右ハ鎖國甚其理をきまは似るるあつてをいへり諸星各一
世界なりとする事ハ元来厄日多國の人ハ始めて發明
せし所なり後世天学家多し此流小歸依を先
大陽と恒星とを一種として同く不動なりと地球と
五星と依伍として共ハ大陽の外を繞るとして五星の
類皆各々一世界なりとするものなり委曲の事ハ天學

書小見えて予が譯せしもあまきと今ハ畧しつまつ右の
中間見えたる四句の文々元文小羅甸語をめて記さる
前の二句ハ古の詩人(ヒルギリユス)が語小本はかりと見
えり今(スラールト)名が羅甸書小より終小大意を翻
譯し得たるが如くなれども原文作意巧拙等の事よりてハ
予が輩の得る窺ふ處にあらず沙巴ハ福亞臘比亞國の
中より

右の段天下を一體同好とあさんと欲するの論ハ彼方殆諸
家普通の言より(檢夫尔)次の段をいそんが為先廣くこれ
を挙より次の段ハ乃ち(檢夫尔)が獨到の論あるべし自問

自答のおと

今我是淺論小述むと欲する所のかれ日本人の當今ハ國法
小ありく饒益ある所あるが故必然をざることを能する所の
實理小おいく既小後学ハ智士の異見ありことを聞及びつこと
ハ恐らく諸家各自の辨說誹謗おは数多あるべうめとてハ
皆其人々の意小任を然りとて顔くハ暫く談説を以て
強く我を喻むとや止る試み我放言せんことを許してよ
我固より理義の可ある處悦ぶべし處数多ありによりく心
を傾けて信むるハ今我地球の面小在て住する小然異語
異習異趣の諸俗を以て事造化の聖智妙用小於て違ふる

あることなり。たゞ一面の地あり。唯一種の民を容べ。のこあはして種々許多の俗を受ふ不宜。是ときハ我等必其域内不於之河あり海あり連山は周繞をる。けりて分地の畷をなせるをみる。又各所各別ある奇特ありてかの造物者こそ瓜分て各俗をくく各方不居住して自守自保をなす。むるわれりて強ゆる。且天既ニ羅百爾言語紊亂恐るべ。此の時不あり。彼後前いまど同軌一體なりし人民をくく密交同好を破る。後來離散して各黨をくく各所を住處とす。不至ら。むるものは豈其所好所期の然ら。むるこそや。けりての確乎。明驗を示さ。不あ。どや。此事後其後不い。りて人民の

根性一化。よ々。故不彼等各方不於て漸く一體となり。一箇の王國をなす。或ハ同好合一の國をなす。不及てハ自然ニ同語あり。の相親して隣國の異語はあ。れ。れ。を思ふ。又ハ其采を妬めり。王國ハ王の國あり。同好合一ハ諸地各別。あ。れ。も。合。後。く。み。故。小今かの人主の兼併を嗜む。の天然に封畷を越。く。猶も其所領を廣大にせんとす。れ。を。其。地。に。お。い。く。此。方。の。艱。難。を。平。け。彼。方。の。騷。動。を。治。る。不。違。け。り。さ。る。の。間。少。く。て。内。亂。外。寇。後。不。起。マ。て。却て本國ハ水旱の地面を失ふ。く。毎々。を。り。又。同。好。合。一。の。國。の。強。士。あ。り。ゆ。え。ハ。其。長。上。ニ。事。あ。り。に。諸。俗。烏。合。の。力。を。以。す。小。け。り。ゆ。え。ハ。麾。下。の。諸。國。政。法。格。別。よ。く。平。生。互。不。猜。忌。の。心。

を懐けり是を以て過て強大あるものは没落及ぶこと却て速うなり造化り各地小恵む一切有用の具を以てして住民全く境域の内は満足して露むりも他人固有の地を犯す心を生むれば道理あるべからず如くならば史冊も然痛ぢりた値遇まゝハ衰へて落去などの事此も充滿する事ハありし然らば相殺害し相搶掠し全國を轉じて荒原となり無人の境となりけりも高名ある宮殿寺觀破て灰燼と成り堆塊と成り類其外許多の怖りた大恐怖し兵亂さてハ慘刺不仁の事併吞侵奪の業此ごとく人間一切聞知る事なきことありてあべつきさるバ又心安く其地を營む勤め

て凶荒の地を開き好く諸藝を盛り進て善道を修し悦て端正を事とし情欲浅小し私事を貪らば善を賞し惡を罰するに廉直を以し子を育み小謹慎を以し家族を御する小精密を以し惣として自とあく他となく共小その福を得て諸族何事も國家に治綱を守護するに足ぬべし爰に最慶賀まづれば日本人の一流めてぞ有る其國檻の内不在太平の澤を受て異國の人と通商通交せざるをわく患とせれば如何とあきば其地勢有福ありて是等の事なきこと堪らざる也急なりされバ又我輩の異國と通商通交する事を好めハ偏り人生切用の物を取来らんが為なりハ彼切用の物をして

好ありし先佳なりしめ便なりしむること致さるのを来
し具ありがしめゆし兼てハ又花奢の風を止めんが為あれば
譏るべきよハあべ取来して具ありハ買あり花奢を止むる
止ハ大過あるをわしく賣たり刑法ハ恪く國體
を理治せんが為なり我國の治法支那に習ふるを
安全堅固和樂ありしめむが為なり我國の佛法印度より
諸根をくく利なりしめむが為なり器械ハ達用のしめ又ハ
美好の為なり種々の諸物ハ我衣となし我食となさんが為
あり醫藥ハ我壯健を保ち又ハ壯健小復せしめむが為なり
是等皆我輩の異人小求る處ありのなり然らば今爰小一
箇の國り造化これよ處する寛良の徳を以て一切性命

を扶け保つる諸用を具へ施してさうも其人の勤勞小より
て國勢強大し世界に著頭するよいし依が如たハ若じ
其地勢の宜しき随ひく國體を際界の内小涯持するハ是
甚かた非ざる且又國人の勢力勇氣外國入寇の變小あ
りし能其國のしきに防護するよ是ぬべくしたけり堪
てあるべし限ハ異國の産物器械を用ぎて是小より兼て
かまらざる不良輕忽矜奢の風及び詐偽戦争奸謀の害を免ま
んらる唯小議の當然しけり小もあべ又大其國の利益
しむ事必定なり斯る國いづこよりあると尋る小今小至
りて世小しれし日本にてぞけり故小今我左の小記

を以て其事を述て日本と他國との差別を明白せんと欲し
罷百尔（バール）と巴毗鸞國（パピロン）の罷百尔（バール）其臺と名高き高臺あり今
ハ破壊し山のごく見ゆといへり太古（ノア）といふ
人の時天下大洪水あり萬民悉く没溺して唯（ノア）
が一黨の其災を免きて（バピロン）の邊小國をなす漸小
蕃茂し其後大洪水より百年をくりありて奇
觀の爲小や有る人高臺を築き其小天其長傲を憎
て民を以て徒黨を別て各々自然小害論を殊（ノア）相合
て一体となすと能（ノア）其上力役は倦て終は各々
其黨を引て四方小分散すとて右大洪水ハ年麻を考

るすいとある帝堯の時洪水横流し即是なり（ノア）
と曆算全書小上古大師諾厄とある是なるべし（アルゲ）
いひ大なる様のごとくなるといふはを作すと是小棄て
洪水を免きたるといふなり右の（ノア）が子（セム）と（亜細亞）
の祖とあり（ヤヘト）と（歐羅巴）の祖とあり（カム）と（亞夫利加）
は祖となり（亞墨利加）も亦（カム）が後ありといふなり物と惣て（歐）
邏巴（バ）の今（ノア）の満世界ハ皆（ノア）が後なりと思へり（バ）
鸞國今ハ（ジヨロシヤ）國といへり（バール祭亞）國の傍ハ
其邊小（アララット）といふ大高山あり山上天氣常
は晴和なり（諾厄）が乗し（アルゲ）今猶（ノア）安置すとて

惣く右の一段ハ鎖國甚その理あるをいへり通商
の事今猶我長崎小移りて唐和蘭陀の交易ありハ皇國
といへども絶て外國通商あるハ何れに依りては
ハ歐邏巴の眼より見まハ通商といふを足むた
唐和蘭陀はこゝハ篇末ニ詳あり

(ヤツレン)その人々(ニッポン)といなり日の基本と言んが如し即かの
歐邏巴小いゝ其國の事を記き諸家の最初なる名譽の遊
行者(勿溺奈亞)國の(マルキユスホーリユス)ガ(ジツパンキリ)といへる島是
なり(マルキユスホーリユス)實ハ衆嶋の惣体を稱して日本といひ許
の灣あり峽あり又遠く地中小入来まる海ありて彼此の地を

隔て別あり其形や王國(大玻里太泥亞)と(喜百利尼亞)
と似て(大玻里太泥亞)ハ(暗厄里亞)國と(思可存亞)國との惣名あり以
絶の境小あり造化は是小惠むと勝て暴猛危険の海を以
して殆行て到るべし攻て克べしさる地とすることを得
とむ是故小南方諸國より渡来する海船周歲の中多くハこれ
暴浪逆風を犯すの時と我徒の船行に用あつべしの日僅小
少許の間たるのみ巖石多き海岸小接する小曲隈浅水充滿せ
海を以して大船を置小所なり唯一箇の佳港ありて稍著大なる
船をも容る小宜しこれハ長崎港といふ然も其口極狹て
窄小の様々迂廻せり鍛煉の舵師其海の浅水山礁沙

堆たいなるとよく暗記あんきしむ者ものありてもまづ通行つうこうの危難きなんな
る所ところあり此これより外ほか小更せうよれた港みなとなるをしら知しる假令かじやうこれあり
むよハ其人そのひと好生こうせいの心こころを推おしして我多われたに告つることなりるべしやハ
凡たゞ我徒われただの大洋おほいを渡わたるの災害さいがい危難きなん別わかて臺灣琉球たいわんりゅうきゅうの邊へん小在ありて甚
し兒類こどもたち逐一いついち挙あげに違ちがあは古時こじ波尔杜瓦ポルトガル人ひと寛永かんえいの比国ひこく禁
蛮人ばんじん是これ日本にっぽん小通交つうかうせし頃ころ渡海わたうみの術わざいまも補虧ほきをさりし時ときハ
いひなかり三艘さんそうの船ふねを出いして其中そのうちの一艘いっそう恙やまなく到着とちやくせしを
以もく猶なほも有あり幸さいに奉ほうとさしとありさきバ渡海わたうみと危難きなんと常小
相伴あひともひく離わかれざるこゝろ知しぬる者もの

歐邏巴洲エウロツパ勿塌パ祭チ亞國ヂヤの(マルキユスポーリユス)といひし者もの

後宇多院ごうたごん建治元年けんぢげん生年なまう十八じゅうはちカ本國ほんこくをし知しる者而しか而しか鞆たたら而しか而しか鞆たたら
國こく小行せうぎやうて(キユブライ)といひし王おう小事せうじへ其王そのおうの支那しなを併あむる
の時とき小値せうぢく隨したがつて支那しな小行せうぎやうく前後ぜんご十七年じゅうしちねんは間ま稍重せうじゆうく用もち
みられく其後そのち印度いんとを經へて再び歸國きこくせりといひし(キユブライ)
もえの世祖せいその名な忽たち必烈ひつれつと史し小せう忍にんえたる是これなる者也なり此
(マルキユスポーリユス)が活計かつけいより歐邏巴人エウロツパ初はじめてく皇國みまをし知しる
といひし(ジツパンギリ)ハ其訛誤そのあままりの言ことばなり

其地そのちの衆庶しゆうじゆありとい言い語ごも及およぶ所ところあり然しか不ふ大だいの域あきし
斯しかる莫大もくたいの人数にんずうを究きうる者也なり殆理外たいりがいなる者と想おもへる人ひともありん
其諸大路そのしよだいろ如ごときハ村落城郭そんらくじやうかく連続れんぞくして殆たい一列いつれつなる者也なり終つひ

バウリかの一郷を出まバ即まるは一郷小入る行く数里を経
まさすも唯い一ち條の街市小らるるがこくくみして実ハ衆村の合成
きさるこゆひ知らば是唯上古別村なりしを以もて今ハ合ごつれ
どとも奮ふ仍りく其名は異こしるのみ又其地城邑多し其尤大
あらハ廣大壯麗及び衆庶あらること天下諸城の最大あらるゆゆ
列まらり其一を(キヨ)又ハ(ミヤコ)といつり尊称なり都城ありて
首都といふが如し、(ゲイステイケン)ケイツル(ケイツル)
者の意の御座なり縦三辰路一辰ハ我半なりむらり横二辰路むらり城
下の休甚有整わくく諸街相接る處其角最方正あり第北七回
を見よ檢夫尔全書中小許多の圖あり又江戸といへるあり実ハ全國の首
あり京江戸の圖々の中小らり

都とり(ウエー)レルトレイキケイツル(ケイツル)
の圖を見よ此事我既に身づらり知る知るあり城下の口あり品
川より加駕く疾あらぶ徐あらびて大道を通過して小
其道実ハ微く屈曲なりとハいひあらぐ終日わくいまご一方
の界小届ることを得ば
(ゲイステイケン)ハ佛家少く出世といふがごと(アル)ハ
世々の義あり(ケイツル)ハ帝號なり(ウエー)レルトレイキハ佛家
少く世間といふが如し出世帝世間帝の義あり漢文又
ていく禮樂帝刑政帝などいえんがといふ(檢夫尔)ハ(蘓

亦奈亞(國)の使者小つた(魯奈亞)國を経て(伯爾齊亞)國
よ行き逐小(咬啗吧)小渡(夫)より元禄三年(傷醫)とあり
て(暹羅)國を経て我國小渡来し其翌年(叅府)ぬ元来ハ
醫師なり

天下の大城廣都の江戸よりと大なるも此ハ(亞夫利加)
都(格)地(厄)日(多)國の(諛)禄城(北)亞墨利加の(墨)是哥城
など(何)れ(何)れ(諛)禄城大(外)郭より(中)央(ま)ど(一)日(半)路
此城十一重の門ありて中なるは(錢)をりて(造)まり(市)ハ
生(し)る(獅)子(お)も(び)麗龍(な)ど(賣)る(所)ありと(三)ク(キ)ル(ベ)
フルと(し)る(人)の(記)小(見)え(り)是(を)天(下)第(一)の(大)城(と)

モ(莫)爾(國)の(甘)巴(亞)城甚(廣)大(を)りて(天)竺(の)諛(禄)と
號(と)し(墨)是(哥)城(を)周(圍)拂(郎)斯(國)道(法)め(く)三十(里)
と(コ)ウ(ラ)ン(ツ)トルク(と)し(書)小(見)え(り)我(二十)六(里)餘(小)當
より(是)城(往)古(ハ)墨(是)哥(國)王(の)都(城)あり(を)歐(羅)巴(洲)
の(伊)斯(巴)泥(亞)國(より)奪(ひ)とり(て)今(ハ)國(名)を(も)新(伊)斯(巴)
泥(亞)と(し)り(其)外(ハ)支(那)國(北)京(城)中(城)下(を)共(め)く(周)
圍(都)逸(國)道(法)め(く)二十(四)里(と)し(我)三(十)四(里)八(合)あり
人(數)六(百)萬(餘)あり(更)小(禁)軍(二十)一(萬)あり(と)い(へ)り(是)
等(を)江(戸)より(と)大(多)る(め)の(た)る(べ)く(熱)爾(馬)泥(亞)國
王(都)ウ(子)子(城)中(城)下(通)して(人)數(六十)萬(と)し(然)也

バ北京の十分は一なり魯細亞國都莫斯科城周圍七里は
何國の道法とせざればといへり我九里をりなり(ストロイス)とい
和蘭國の道法なり
る人は記ふを八九辰路といへり九辰ハ我六里弱なり又
王室所屬の外城中城下は九萬五千戸あり往時ハ今の
一倍をりなり一(カサ)おもび(キリミ)の韓人謀反
して大亂入せしよを以來ハ大さ右のどくといへり
但(ストロイス)が彼地は在ハ寛文の頃は事あり五里小
當る説は其後の言なり寛文の後漸々魯細亞國大は與
起し今ハ初のどく大かたりんも知べ
ら伯爾奔亞國王都(イスハン)拂郎斯國の道法は周

圍十二里といへり(ストロイス)ハ五辰路といへり拂郎斯の十二
里ハ我十里四合より十六辰路小當り都尔格國王
都公斯瑞丁百兒城周圍意太里亞國の道法はく十五里
園圍と本城とを除けを十二里といへり其十二里ハ我
四里三合をりなり是等の外歐邏巴の大城ハ意太里
亞國都羅媽拂郎斯國王都把理斯諸厄里亞國王都(ロデ
ン)以三城小をりハ然も羅媽城周圍意太里亞國
の道法はく十三四里といへり我四里七合餘よりハ五里一
合弱に當り把理斯も(ロデン)も大さ大概羅媽城の類
なり右里數ハいづれも(コウラントルク)ハ五里七合餘より
小足なり

(ウエー子)以下の諸城は中最大なるは、伯尔奔亞國の(イ
スハ)なり然れども其周圍我十里四合むりふ當るとは、
これを圓形の美し、全徑二里三合むりなり江戸
の全徑ハ四里といふ、右の教城いづれも江戸の
大さふ及ぎ、こやを知らべし是をめて見まば右の外も
亞夫利加の馬邏可城弗沙城など大城ありふも非
ども江戸より大ありのハ得難き事必定なり然まば
我國の京都江戸を以て天下最大城の列ふありむ
こや元よりの當の論なり但し右小し、我國の道法ハ
六尺五寸を一間と、六十間を一町と、三十六町を一

里とす、ゆたを以て

日本人一箇の氣象あり、こきを名けて膽氣なりとやいふ、
英氣ありとやいふ、讐敵の爲ふ打敗られ打負する時、こ
怨を得報ゆるこや能ざる時、こや精神泰然として
みづろ強手を加ふることを難し、其生命を輕賤する
こや斯の如し

校者の言小曰作者の羅旬語をりて此論を記するを案
す、強手を自己に腹ふ加ふと見ゆる、是ハ其人通
例おのこが腹を切自殺する、こや強し、
其諸篇を次序を
予る待り、校者とハつり

其内亂の跡よわい〜（そのうち） 實小駭く〜（まこと） 事ども充滿をり〜（こと） されを
昔時よりその人各々勇氣第一〜（むかしより） 其れを〜（その） 義経清盛楠阿倍仲麻呂（やま）
白ゆり其史記の載る所より〜（しよき） 義経清盛楠阿倍仲麻呂（やま）
殺の説を〜（ころす） あど〜（い） 人及び其餘名譽の人其大武功あり〜（ひと） 話を聞
んわれを何まも日本人の自讃ま〜（にほんじん） かの古は羅媽人（ロマ）
（ミウツキイスラホエ）及び（ホラツチイコクリテス）（二人ハ時の） 於るが如くあり
事を信知まべし〜（こと） 古時留て羅媽の人及羅巴の内外を兼係ま〜（むかし） 爰小
從來我談説せし所の當下は一證とす〜（むかし） 不足べきハかの薩摩
州の産ある七人の若士が異國よ出別〜（しゅう） 和蘭人の前小於
て希有の勤をな〜（せう） めくぞらりりる其事尤小いあがごとし

千六百三十年（寛永） 七年の〜（しちねん） たりりる其比までハ日本もいま〜（ちひさ） 四
方の通路開け〜（かた） 國人つづまの地へ〜（くにびと） 隨意小行て通商〜（あた） なる
をりな〜（あ） 一箇の日本は商船交易の爲は臺灣小行り
後ふ〜（のち） 臺灣の地支那人小取ま〜（たいわん） 今小至る〜（いま） 支那の所領
なま〜（な） 其比までハ猶和蘭人の地あり〜（その） 當時ハ和蘭産ある（ヒートル
モイツ）人臺灣の刺史〜（モイツ） 遺恨ありての事〜（い） やありりる
かの小船あ〜（かの） 渡り来ま〜（わた） 日本人を痛く厲〜（にほんじん） ぞ取扱ひける
日本人謂らくおのが身ハさ〜（にほんじん） もいふハ足ば〜（い） 是ハ我君
の耻辱ふ〜（ちゆうぶ） あれ〜（あれ） 國小歸りて其主君小對〜（くに） 大小歎き
訴へ〜（うた） 斯る忌々〜（かた） 恥辱を（ナンバニイ）
○十六

之り別て和蘭人をとり譯者曰(ナニバニ)ハ敵蠻人あり我國の所謂南蠻人ハ
 伊斯波泥亞人波爾杜瓦ル人をとり和蘭人を紅毛人と云ふなり
 不受てさう報ゆべきやうもなかりけるわがふかの主君大不
 憤怒ししる處ハ其衛士多ク曰我君より我等ハ君の讐を報
 ゆることを許ししるをばハ我等永く君の侍衛しることを能はじ
 我等願くハ無道者の血をめて此汚穢を洗滌せん彼凶賊が
 首を取来らん又々生あがら君が前不別来らば君随意不適
 當の罰を加へて我等が中めて七人あはば足ぬべし海路の
 危嶮ある城郭の堅固なる侍衛の衆多ある彼が為不防禦を
 なすとも争で我憤排の銳利ある小堪人彼等ハ南蠻人
 我等ハ(三ホンジ)

檢夫不自注曰日本人と云ふは又意をりてハ天が下を
 世界の人と云ふなり譯者曰檢夫何をりて云ふはハ知れず

神孫たりと云て頻に請求して遂に許容をいり是
 實ハ大膽の言なりと經譯者と申すも亦女らうとも勇
 氣と機変とを以て之を能しけりおはは喉やい言なく
 灣に利史ヲ招き即一舟に刀と指と彼と搦にきて
 白晝に己の船に付じけり又衛士家族目あにありは彼
 か刀とぬきて威を示すおふ女し敵討きしつあは即時
 小刺おふしと云はれはさう敵なすおたの一人も敵て
 敵者と退けて利史と申んと仰きける者ハなかりける
 和蘭人ハ日印と呼し(ヤッホン)と云り又(ヤッパンナリス)とも云ふ
 此語の語ハ漢月又オカチなり主君と云は是以平報と云り

一人も生て國小敵りハなく斯る大敗軍は不幸ある音信を其
人ハ傳へて告べた者ぶふなりや申第二回ハ後宇多院日本
小帝より時千二百八十一年弘安四年再び斯のごくつたることや
りりき韃靼の君世祖此時既又支那を取又其大将(モロコ)の事
成て候きるは是ハ成て候きるは是ハが誠を用めて日本を滅して其既不得し處の
大邦小復併せんと欲を是より即かの大将小大船四十
艘軍士二十四萬を授け遣りて檢夫尔自注曰支那の然ふ小
日本の浦に來にけれバ風暴の厲し記有ハ唯十萬と云り以強大無敵の
軍船及び船中なりし軍士多く打碎りて失ぬ是より前小日
本警の為小曾てより強く攻らるるこやハあはれ又是より後

とても日本人の戦ひ勝て歡喜をへき事此強大ある二寇の
敗績をふあくるは事ハつるべし凡日本人の其大概を
いそが戰場に在る謹審勇敢謀畧虧る處なく軍法に在る次序
亂る事なく將帥の命を聽ふいて悦び進んで其宜きを失ふ
ことこれ一是等の事我既不信受人の事も知し先むと欲する處
ありて後世に至らば自然天下は明白ありつるべし力のなりさ
もバ日本人を畏る重むるはなるべし國家太平を受る
の久しに静謐を得るの甚しに今の時如くなるも他の諸國
の多くは是よりして懶惰怠慢懈弛遲重の弊を生じて漸りて
轉して怯懦な風俗となすの恐ある類ハつるべし其

故ハ其人常ハ高名ナリ古人の大功義勲の事を服膺して戦場
ニ勇むの烈シた忘及ビ名誉を好むの懇ある心を養育する
コト甚親切ナリ其子を育スルヤ剛と勇と依リテ第一の
重キ教訓トシテ力を竭シテ幼心ニ銘刺スルを力ケ意トセ
テト見えラサキバ孩提の児號位ニシテ時ハ父母毎ハ軍曲
義縱多ク謡を歌ヒク是を靖む在学の童兒讀書を学ボ亦も殆
曲といフヲ其の書を雜ニ勝マシテ勇士トシテハ其豪傑ナリトシテ英雄を
トトスル處の自殺を事トシテ輩の遺言の類及ビ其事跡
のケルアル是漸を以テ童子幼稚の時より剛心勇氣及ビ
賤生の心けりトせんト要ゾリレタキ長者集會スル時

多くハ古人武功の事を談ズルをりテ第一トシテ史冊の記スル
所を語リテ委曲の微あるに即リ然して又々々々々是が為ハ
感慨多ク堪ビ豈唯然のミナラン今聞名譽の嗜好ハ醉
ふコト酒をりテスルよりも甚シ是ハより國の格式小テ山
の頂ハ火を燃スルヤあり是ハ國家を驚セリ危急ニ及ボ
或ハ帝より諸侯小命トシテ即時小部下の士卒を致スル時ナリ
では曾テなレ事あり斯の如キ火をんまバ諸人群衆トシテ記
録セシムル事を欲シ各々武器を携ヘテ戦陣所を知ら
ト欲スル急アル不堪ハ彼此互ハ追逼テ聽命の第一トシテ
事を欲スル志アリ成名を好むの急アル戦闘ハ勇む

の烈したみづく好く危殆最大の地小當らんこやを欲て
寧この急烈の心よりて時小或ハ其身の不利とありと大ハ
讚美せしむるこやを致さるも願ひく其命を受ん事を望め
且日本人まゝ兵器の宜した小乏しく遠く戦ふハ弓
あり鴉銃あり手と手と相交り戦ふ小銃と刀と并用つ
別てその刀は銳利あるこや一刀少く人體を兩断となす
は堪じり上作上鍛なるを以て是を異邦人小賣するハ其國
外小贈るこや法禁ずること既久し賣者ハ磔刑とり是小
與する諸人ハ死刑とり

右ハ我國の武備をいへり檢夫尔以来既ハ百年餘小たり

如まバ我國の風俗と其頃と今と同異如何あらん室鳩
巢の駿臺雜話小と是等の評あり



